

第22回軽金属学会功労賞

軽金属学会功労賞は、永年にわたり軽金属学の発展ならびに当会の活動に顕著な貢献をした者に贈る。



鞘師 守 君
(北見工業大学
特任教授)

鞘師 守 君は、1980年に日産自動車株式会社総合研究所に入社して以来、自動車用各種金属材料の開発に従事した。主に鋳造材の研究開発を行い、特にアルミニウム製自動車部品による自動車軽量化促進に努めてきた。具体的には、耐磨耗性ハイシリコン合金の開発に多大な貢献および実績を有し、当該開発合金は現在に至るまで国内外で多用されている。編著書においては、「ユーザのための鋳造品ハンドブック」や「金属材料事典」の著作に参加した。また、論文や口頭発表および解説論文や学協会テキストは枚挙の暇がないが、例えば「国内外の自動車燃費規制と車両の軽量化」において、最新の技術動向を詳細に解説している。2005年に北見工業大学に異動して以来、軽金属分野の将来を担う若手人材を多数輩出してきた。また、北見工業大学社会連携推進センターにて、産学官連携の一つとして北海道における軽金属利用促進に貢献してきた。本学会には1973年の入会以来長年にわたって積極的に活動しており、1999年から2002年まで評議員を担うなど学会に多大な貢献を果たしている。これらの活動について、2011年11月軽金属学会創立60周年記念表彰「60周年記念功労賞」を受賞している。当学会北海道支部活動においては、2012年より支部理事として支部活動を支えてきた。

以上のように、同君の軽金属に関する功労は極めて顕著であり、ここに軽金属学会功労賞を授与する。



山ノ井 智明 君
(昭和電工株式会社
アルミ圧延品事業部)

山ノ井 智明 君は、1983年に昭和アルミニウム株式会社（現 昭和電工株式会社）に入社し、板材、電解コンデンサ用材料、食品・薬品包装用加工箔、自動車用熱交換器用材料の研究開発に従事してきた。その成果の一部をシンポジウムや会誌「軽金属」にて報告し、板・箔材料を中心とした工学的課題の解説に努めるとともに、長年、アルミニウム加工部材の上工程から下工程にわたる開発・技術・品質管理に携わり、アルミニウムの発展に大きく貢献している。学会では、「金属成形部会」、「プレコート材・表面処理材のプレス加工技術研究部会」、「アルミニウム溶湯と耐火物の反応研究部会」に参画し、また、編集委員会編集幹事ならびに各種推薦委員・選考委員を担当するなど、多年にわたり本学会活動に貢献している。支部活動においては、2012年より関西支部理事を務め、2014～2016年には副支部長として支部運営に携わってきた。その間、関西支部の活動キーワードにもなっている「若手」の育成のために「フィールドワーク」、「サマースクール」に企業の立場で参画し、また「出前講座」の企画・運営に携わり、地域産業における軽金属振興に取り組んでいる。加えて軽金属学会第130回春期大会では副実行委員長として大会運営に尽力するなど、支部活動を企画・支援している。

以上のように、同君の軽金属に関する功労は極めて顕著であり、ここに軽金属学会功労賞を授与する。